

徳島大学
女性研究者

Woman

徳島大学女性研究者ロールモデル集



文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業



AWA Support Center * * * * * <http://www.awasapo.tokushima-u.ac.jp>

〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15 Tel.088-633-7538 Fax.088-633-7572 Email awa@jim.tokushima-u.ac.jp

夢

はばたけ!!
研究者の

Woman



感銘を受けた
キュリー夫人の言葉

平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」が採択されました。

AWAサポートセンターは平成22年10月にその活動の実施母体として開設され、徳島大学の男女共同参画の推進、女性研究者支援に意欲的に取り組んでいます。その一環として、この度、ロールモデル集を発刊することになりました。

日本では女性研究者が少なく、特に理系ではその傾向が顕著です。

徳島大学での女性教員の割合は全国平均よりも下回り、また、助教層は28.9%に対し教授は6.8%にすぎません。研究者として最も充実した時期であるべき30代から急激に減少する傾向にあるため、子供のいる比率も著しく減少します。この事は、スキルアップやキャリアアップ時期と出産・育児の時期が重なり、離職せざるを得ない状況に追い込まれる事を示唆しています。また、身近にロールモデルが少ない事も一因になっています。

そこで、各分野で活躍されている女性研究者をここに紹介させていただきます。

本仲 純子 /

徳島大学AWAサポートセンター長・特任教授
元 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部教授

女性研究者への期待



玉置 俊晃 /

徳島大学AWAサポートセンター アドバイザー
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部長
徳島大学医学部長
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授
薬理学分野

女性が子供を産み育てて次世代を担う人材を育成することの重要性は、今も昔も変わらないと思います。

一方、個人の能力や適性により、男性が子育てや家事の中心的役割を担ったり、女性が格闘技の選手として活躍したり、女性が持っている能力を発揮して科学の発展に寄与すること等は、男女共同参画の世界では当然のことでしょう。

でも、男女共同参画が当然である

こんにちは、と話のできる関係に



葉久 真理 /

徳島大学AWAサポートセンター アドバイザー
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授
助産学分野

2009年4月21日、女性研究者等支援プロジェクトチームが立ち上がりました。第1回会議では教育・研究、子育てを通して既に知り合いの委員が多く、気楽に本音で女性研究者等支援に必要なものは何かと、会議が進みました。

そして今、「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」の採択を受け、AWAサポートセンターを開設し、女性研究者等支援への取組が始まりました。

子育て中の女性は1日を2日生きています。仕事の1日と、帰宅後の1日。

どちらの1日も楽しく充実したものとなるよう、支援し支援されてほしいと願っています。様々な企画に参加いただき、他領域の方と知り合いになることが、今そして後々まで、有用な支援になると感じています。徳島大学で働く女性が「こんにちは」と話のできる関係が作れるといいですね。

“研究”こそ、女性に向いている

新設された MD・PhD コースに進む
私が徳島大学医学部医学科4年次にMD・PhDコースが新設され一期生として進学しました。このコースは4年次終了後に大学院博士課程を組み込むもので、医学部を卒業するときにはMD(医師)とPhD(医学博士)の両方の学位を取得できるものです。私は臨床をしながら研究も...という自信がなくて、それに専念して取り組みたいと思ってこのコースを選びました。大学院の3年間は自由に研究を楽しまし、また先に基礎研究を学んだことはその後の臨床研究でもとても役立ちました。いずれ大学院に進学したいと思っている人や、少しでも基礎研究に興味のある人には、このコースはおすすめてです。

子育てしながらの臨床研修
学生時代に結婚して、卒業試験の最中に妊娠6カ月で受験しました。出産して1年は主婦業に専念し、翌年4月から卒後臨床研修を開始することに。研修医は一般的に人生で最も頑張るべき時期で、周りの人たちは、それぞれ24時間トレーニングに費やしていました。そんななか自分は子どもの送迎ができるように時間を融通してもらい、夜間の業務や急な呼び出しなどもしばしば免除して

健康への影響を調査し、心理的な支援にあたっています。

学内では、健康心理学、心理学の基礎(臨床心理学等の講義を担当し、10名をこえるゼミ生さんに囲まれながら日々を過ごしています。また、大学院教育学研究科に設置されている臨床心理相談室では、臨床心理士をめざす学生さんの指導や相談業務等にも携わっています。

実践経験を大切に、ユーモアをもって!
この分野の研究者として大事なことは「調査協力者と支援の実践家に敬意を払うこと」と思っています。研究を行う上で、条件の統制と緻密な研究計画は重要ですが、現場で起こっていることを無視して、机上のデータだけでは効果的な支援への提言をすることはできません。協力者あつての調査でもありません。

あとはユーモア! 自分の精神健康を維持するためにも、心に余裕をもって仕事をするために、日常でのユーモアって大事ですよ。

家族の理解と支えの中、今後とも支援、研究に携わっていきたく思います。

もらっていたので、やはり常に後ろめたい気持ちがありました。ですから、患者さんや現場で働く医師、看護師に迷惑をかけること、勤務中は時間を無駄にしないこと、また自分でできる事は率先して行っ、ということには特に気をつけていました。後ろめたい気持ちもありますが、両立する上では多少の凶々しさも必要かもしれませんね。

自分にとって何が大切か
自分がバリバリ仕事をしようと思つたら、何かを犠牲にしないといけない。それで子供の成長に良くなかったかな、と後悔しても自分の力ではどうしようもないですよ。でも、自分のことは、今ちょっとハースダウンしてもあとから取り返せばいいんです。自分にとって何が大切かを考えて、自分のことをコントロールすればいいと思います。私の場合は、それが家族や子どもだったわけですが、仕事を進めたいと思えます。

これから本格的に研究者として研究に取り組んでいくわけですが、臨床研修のときよりも自分で仕事の調整がしやすくなります。自分のペースでできる研究こそ、女性に向いているんじゃないかな。と、また私は研究を生産続けていきたいと思います。

研究者には、実践への敬意が必要である

きつかけは 高校時代のボランティア活動
カトリック系の高校に通っていた時、脳性マヒのために体が不自由な方の介助をお手伝いする機会がありました。その方は「いろんな悩みを聞いてくれて良かった、ありがとう。介助者はいるけれど、小さい頃からの悩みを聞いてくれる人がいない」と話してくれました。その時は心理士という職業をよくは知らなかったのですが、大学に入り、心理学を学ぼうと決めました。学部では基礎的な分野である知覚心理学を、大学院進学後は障がいと脳の関係を学ぶため神経心理学を専攻しながら、臨床心理学の訓練を受けました。その後は、「たいてい人生経験を積んでもいないのに、人の話なんて聴けるのだろうか」と思い、大学を離れて現場に出ました。

学生の時はがむしゃらにアホほど単位をとって、笑われたほどです(笑)。高校を卒業し、少し時間を置いて大学へ入学したが大抵は本当にまじめに勉強しましたね。同じだけ遊び歩きました。

心的外傷やPTSDについて調査
ある事件の心理的支援に関わったことをきっかけに、調査研究にも携わるようになりました。現在は自然災害や、悲惨な事件、事故に遭遇することで生じる精神

健康への影響を調査し、心理的な支援にあたっています。

学内では、健康心理学、心理学の基礎(臨床心理学等の講義を担当し、10名をこえるゼミ生さんに囲まれながら日々を過ごしています。また、大学院教育学研究科に設置されている臨床心理相談室では、臨床心理士をめざす学生さんの指導や相談業務等にも携わっています。

実践経験を大切に、ユーモアをもって!
この分野の研究者として大事なことは「調査協力者と支援の実践家に敬意を払うこと」と思っています。研究を行う上で、条件の統制と緻密な研究計画は重要ですが、現場で起こっていることを無視して、机上のデータだけでは効果的な支援への提言をすることはできません。協力者あつての調査でもありません。

あとはユーモア! 自分の精神健康を維持するためにも、心に余裕をもって仕事をするために、日常でのユーモアって大事ですよ。

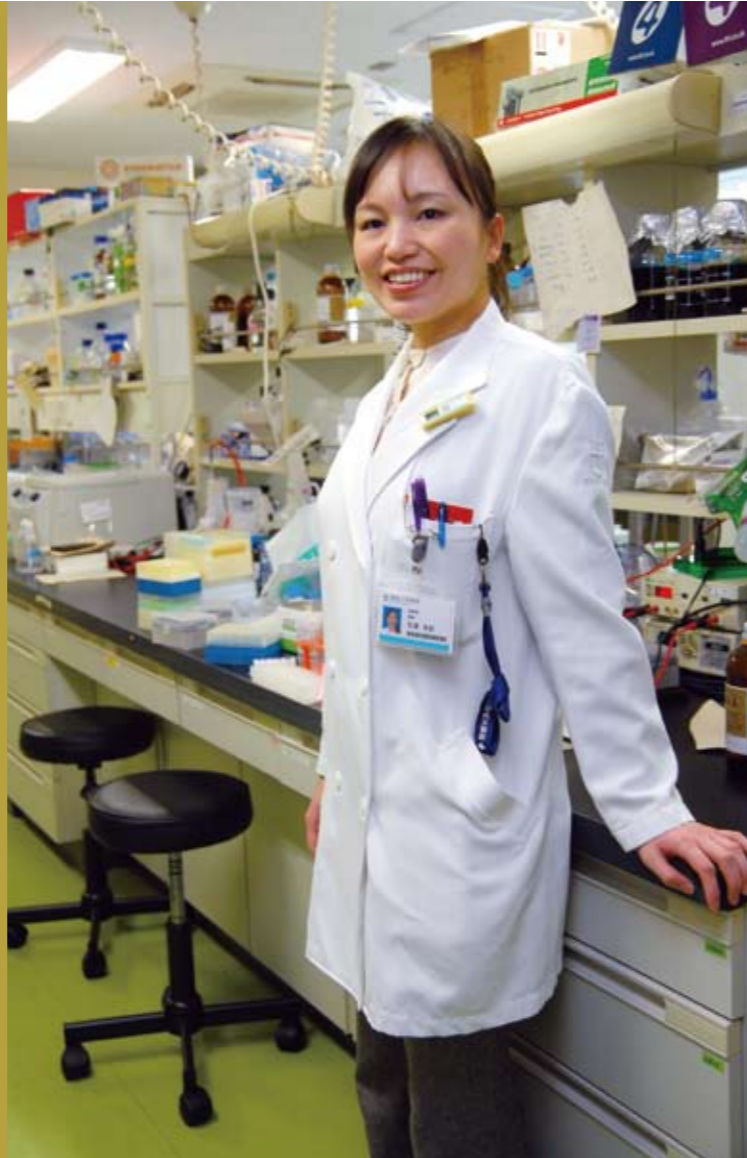
家族の理解と支えの中、今後とも支援、研究に携わっていきたく思います。

石澤有紀

いしざわ ゆき

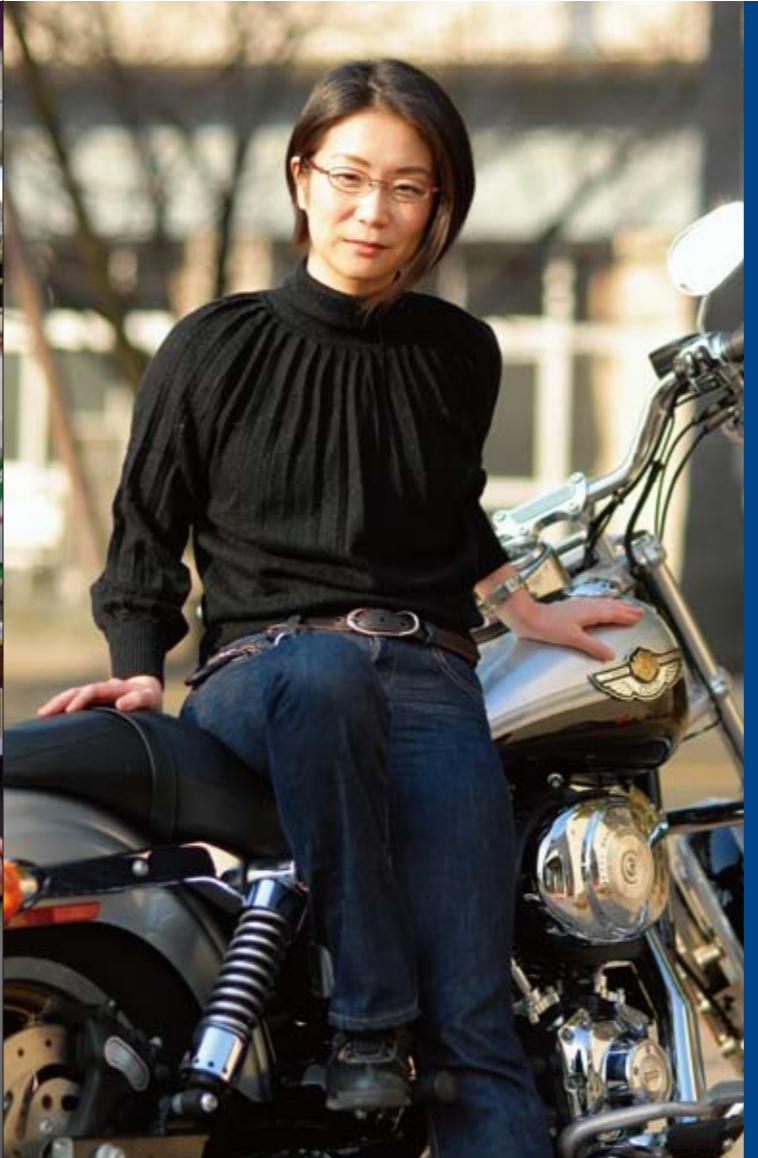


My Favorite
子どもの写真



徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・薬理学分野
特任助教
博士(医学)

略歴
徳島大学医学部医学科4年次を終了後、創設されたばかりのMD-PhDコースへ進学。博士課程を修了、学位を取得し再び徳島大学医学部医学科5年次に入学。のち徳島大学医学部医学科を卒業し、医師免許を取得する。出産のために1年主婦業に専念しその後卒後臨床研修開始。2011年4月より出身教室である薬理学講座にて特任助教として勤務。



内海千種

うちうみ ちくさ



My Favorite
100周年記念モデルの愛車、ハーレー。

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
講師

略歴
徳島大学総合科学部人間社会学科人間行動研究コース卒業。大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程修了。その後、大阪府下の精神科病院勤務。大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンタートラウマ心理相談室相談員、兵庫県こころのケアセンター主任研究員等を経て現職。(財)三木康楽会 康楽賞(2000年)、日本トラウマティック・ストレス学会 学会奨励賞(2009年)受賞。

世の中でまだ誰も知らないことを明らかにする

誰も知らないことを明らかにする喜び
腎臓と骨、消化管を結ぶミネラル代謝の分子栄養学的研究に従事しています。この分野を本格的に学び始めたのは、大学4年生からで、誰も知らないことを明らかにしていくことが、強烈に楽しく思えました。ここまで夢中になれるものが今までなかったため、余計にそう感じました。ピアノなどお稽古ごとはいろいろやりましたが、今の研究が一番続いていますね。

楽観的であることが大切
研究者は楽観的であることも大切だと思います。上手くいかない事の方が多いですが、「世の中でまだ誰も知らないことを明らかにしている」と思うとワクワクする気持ちになります。孤独な作業が多いですが、研究室で熱意のある学生さんといると、モチベーションがあがりますし、教えられることが多いです。研究者はワガママになりがちですが、学生さんに教えられ、研究者として大きくしてもらっていると思います。

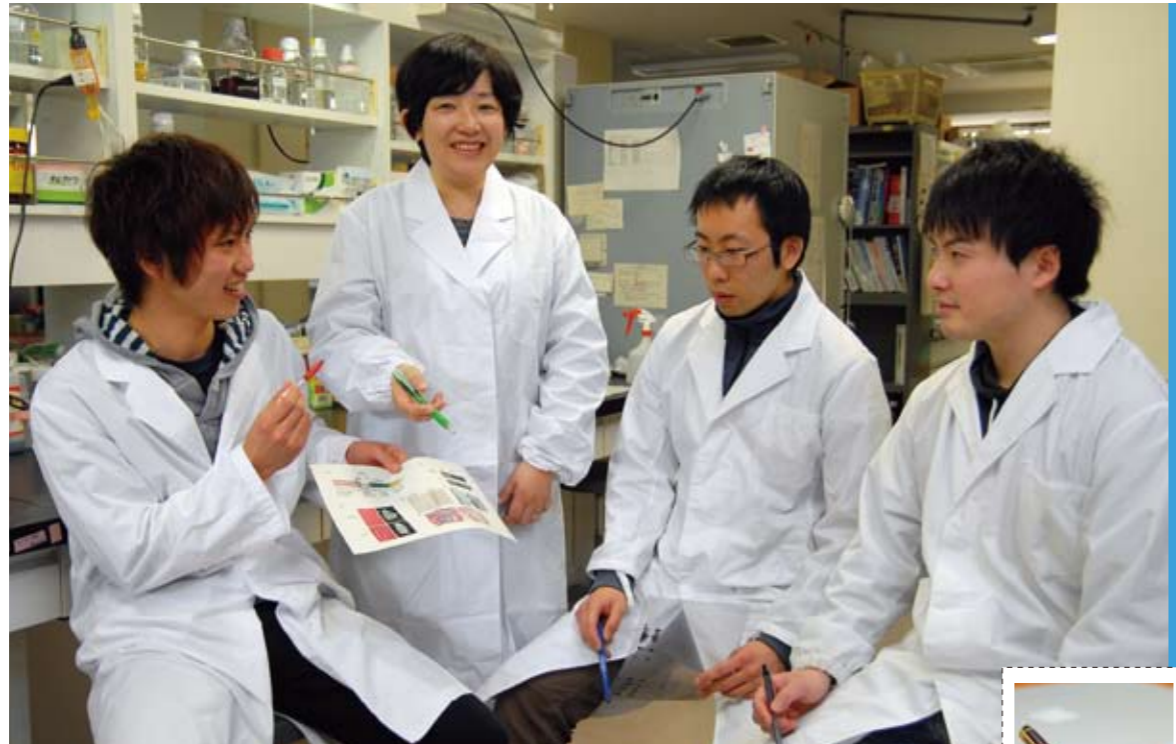
素晴らしい恩師との出会いがきっかけ
不器用なほうなんですけど、素晴らしい大学時代の恩師との出会いがきっかけで研究の道に進みました。またマイアミでも日本人の素晴らしい先生に出会い、「物事・真理を追究する真摯な姿勢」を学

びました。長寿医療センターでの恩師との出会いでは、「論理的思考の重要性」が身にしみました。素晴らしい恩師との出会いが私の財産となっています。

どれだけ楽しめるか
今の学生さんの間でもよくある話ですが、私は、学生時代には、奨学金や助成金のお世話になっているんです。大学院からは親の援助なしでしたので…。それでも研究が面白く、生活に余裕はありませんでしたが充実していました。研究者は成果が求められるし、成果が出ないとずっと続けられる職業でもありません。自分のテーマに惚れ込んで、「面白い!」と思う気持ちと、楽天的に、「なんとかなるぞ!」という気持ちを持ち合わせていると長く続けられると思います。

周りに支えられて今の自分がある
分かってなかったことが明らかにったり、学生さんが研究内容に興味を示してくれたりすると喜びを感じます。いつかは独立して教え子とチームを組んで研究をするのが夢ですね。それぞれが成長して、集まった時に、さらに面白い仕事が出来ると考えます。

一人でできることなんてたかがしれています。恩師や仲間や学生さんに助けられて今の自分がある、という気持ちを忘れずにいたいと思います。



辰巳 佐和子

たつみ さわこ

My Favorite

相棒のパソコンと父からプレゼントされた万年筆。

略歴
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・分子栄養学分野 助教 博士(栄養学)

病気の予防としての栄養学に興味を持ち、徳島大学医学部栄養学科に入学、博士後期課程を修了。栄養素による、選択的スライジング機構に興味を持ち、マイアミ大学医学部へ博士研究員として勤務。その後、博士研究員として国立長寿医療センターで骨代謝の研究を経て、現職。

「未知の世界」に挑むことはどんなに苦しくても楽しいもの

新薬開発や医薬品の適正使用のために
ヒトにおける薬の毒性の有無を情報科学的に予測し、効率の良い新薬開発や、臨床での医薬品の適正使用に活かすための研究を行っています。例えば、妊娠・授乳期の薬物治療に役立つデータベースを構築したり、ヒトにおける薬の母乳移行性や胎盤通過性をコンピュータ上で予測することで、安全な薬の選択に使える予測式を立てたりしています。また、薬剤師と一緒に、患者さんのQOLを改善するために薬剤師が薬に關するケアをどのように工夫したらよいかというような研究も行っています。

学生時代は文武両道、そして花嫁修業も!
学生時代は勉強のほか卓球部のマネージャー兼正選手としてクラブ活動にもエネルギーを注いでいました。関西薬学生卓球大会と医歯薬卓球大会を徳島大学で開催したり、友人とペアを組んで関西薬学生卓球大会で3位になったことも良い思い出です。一方で母の希望もあり、料理学校、生け花、着付け教室などに通って花嫁修業(こ)もしました。70年代当時、薬学生の大半は女性でした。薬剤師資格を身につけてもう少し働いては結婚退職する人が多く、タンス免許は国費の無駄遣いだとか、女子大生亡国論のような世論もあり

ました。かけがえのない、家族という存在 就職後すぐに高校の同級生と結婚し、幸いにも28歳で一人娘を計画出産することができました。子育てと研究の両立は大変でしたが、夫や姑の理解と応援をもらい、娘が10歳の時には単身で海外留学も果たしました。家族と過ごす時間を大切に、仕事をもち帰る時は家族が寝静まる早朝に短時間で片付けていました。徳島大学に赴任後も家族が離れて暮らす生活を余儀なくされ、今もお私の単身赴任生活は続いています。女性研究者が妻であり母であるが故に家族のあり方が通常とは異なりますが、家族を持つ自分の幸せを噛みしめています。

みんな諦めないで、欲張り生きて!
真の意味でジェンダー・イコリティの実現した社会で、女性研究者が充実した人生を送りつつ、能力を存分に活かして世の中に貢献している、そんな科学技術立国日本の将来を夢見しています。人として女性として、研究も、仕事も、結婚も、家庭生活も、みんな諦めないで欲張りに生きてください。何があっても生き生きと前向きに生きるあなたには、きっと良き理解者と協力者が現れると思います。



山内 あい子

やまうち あいこ

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 医薬品情報学分野 教授 博士(薬学)

略歴
徳島大学薬学部卒業、同大学院修士課程修了。その後、神戸学院大学薬学部助手として就職、薬理学分野の研究で薬学博士(東京大学)を取得。1991年から2年間、オランダのアムステルダム自由大学にできた世界初の分子毒性学研究室に留学。帰国後、神戸大学医学部附属病院で1年間薬剤師業務研修。1996年、徳島大学大学院医療薬学専攻医薬品情報学講座の助教授に就任。2009年末に同大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医薬品情報学分野の教授に昇任し、現在に至る。

Junko Sanada



My Favorite

いつも現場へ持ち歩くカメラ。

真田純子

さなだ じゅんこ



徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 助教
博士(工学)

略歴

人々の生活と関わりの深い工学を勉強しようと東京工業大学第6類に入学後、社会工学科に進み、2年次に景観工学を志す。3年修了時、イタリア・ラブロに1年間留学。その後、同大学院社会理工学研究科に進学、博士後期課程修了、博士号取得。2007年、博士論文をベースにした本を出版。

研究者とはクリエイターである

**イタリア留学で
見えた景観の良さ**
大学2年次からは朝6時〜10時までアルバイトをして授業に行き、その後景観工学の研究室へ行って公園の設計のお手伝いやコンペへの応募などを行っていました。3年修了時にイタリアへ留学しているような街を見て変わった結果、「景観の良さ」について根源的に考えたいと思い、進学してさらに勉強することにしました。大学院進学後は「その日、思いついた所に出かける」というフリーな生活で、月に1〜2回はライブに行ったり、自転車で遠出したりと、アクティブに遊びました。一方、論文を仕上げる前の2年間は、ひたすら図書館に籠もって戦前の資料を調べる毎日を送っていました。

**農村集落の環境や
景観を維持するには**
都市がどのように形成されてきたのかを歴史的に調査したり、農村集落の環境や景観を維持継承していくため、歴史や今後の方策について研究したりしています。また、地域の地場産産を盛り上げようと、那賀町で昔から食べられていたゆず酢を使ったり、ちらし寿司、かきませのプロジェクトにも取り組んでいます。全国の寿司屋さんに、ゆず酢を使った寿司を出してもらおうのが夢です(笑)。美しい石垣で知られる美郷

村の高開地区に出かけ、景観を維持していく大切さを学生に身をもって学んでもらうために石積み体験をしたこともあります。時間を自由に使い、やりたいことをやる道筋を自分で作れるのが研究者の醍醐味。美しい国土空間を作るための考え方や技術、仕組みを整えていきたいですね。研究者であることは、そのひとつの手段だと思っています。
**自分の勉強ばかりではなく、
いろんな経験を**
研究者は、「これを解き明かしなさい」と誰かがテーマを与えてくれるわけではなく、常に新しいテーマを自分で模索し続ける必要があります。「みんなが競って求めていること」を研究するだけでも一応は研究者風になります。がそれは真の研究者ではありません。いろんな経験を、社会に目を向けているのか、社会に必要とされているのか、が見えてきます。それを自分の専門分野で解き明かすことが研究です。私は恩師から、「20代のうちに、どれだけ興味幅を広げられるかが大事。富士山が高いのは、あれだけの裾野があるからだ」と言われまして、専門分野だけに目を向けて高めていこうと思っても限界がある、というこたと思えます。

多田敏子

ただとしこ



徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部・看護学分野
教授
博士(医学)

略歴

自身の健康管理のために看護の勉強をしたいと、高知女子大学家政学部衛生看護学科に進学。卒業後は東京女子医科大学附属病院に4年間勤務、その後徳島大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程に採用され、医療技術短期大学部看護学科を経て今日に至る。博士(医学)の学位は徳島大学で取得。

続けていこうという意思こそが研究の素

自身の病気がきっかけに
中学生のころに若年性関節リウマチと診断され「一生治らない」とも言われ、今後元気に仕事ができることもないだろうと思っていました。看護の勉強をすれば少しは役立つかなと思ったのがこの道を志したきっかけです。そして、大学の実習でがんの末期患者を担当していたとき、たとえ治療の手立てはなくても、看護はその人が生きている限り続いていくのだというのを確信し、看護への思いを強くしました。その後、東京で働き始めて自分の病気が治り、いつ再発するかと思いましたが、今でも健康でいられています。
子どもを机の上に寝かせて授業
当時、産前産後の産休はあったけれど、育児休暇は取れませんでした。同僚には迷惑をかけたことが授業を前倒したり、産後1カ月くらいで出てきて子どもを机の上に寝かせて(笑)授業をしていました。

私自身は子育てしながらのほうが人の暮らしの喜びや苦労が分かり、看護でも役立つと思っています。子どもが小さい頃は、自分の子どもの世話もできないなんて、大切なことを忘れていたのではと思ったりもしましたが、大学でお世話になった先生の「仕事は続けてこそ、本当の意味で仕事と言えるのだ」という言葉が心に残っていて、やめようとは思いません。

私自身は子育てしながらのほうが人の暮らしの喜びや苦労が分かり、看護でも役立つと思っています。子どもが小さい頃は、自分の子どもの世話もできないなんて、大切なことを忘れていたのではと思ったりもしましたが、大学でお世話になった先生の「仕事は続けてこそ、本当の意味で仕事と言えるのだ」という言葉が心に残っていて、やめようとは思いません。

高齢者の生活の質向上のために
今研究しているのは、主に高齢者の健康管理や生活の質に関することです。歳をとるほどに心豊かに暮らしていけるはずなのに、なぜ寂しげに日々を過ごしているのか、と思ったことがきっかけです。今は、やりがいや意欲を持っているものがあれば、それが生活の質の維持向上につながると思っています。あまりにも手取り足取り環境を整えるのは、必ずしもよいことではないと感じています。
どんなに制度が整っていても...
以前と比べて今は働く女性のための制度が整っていますが、どんなに制度が整っていても自分の続けていこうとする意思がなければ研究は続けられません。これは、高齢者の問題と同じですね。周りの人は本人ががんばってほしい、手助けはしてくれませんか、が、自立的な気持ちをもって、プラス思考で続けていくことが大切です。また、ただ学生に教えるだけでなく、例えば毎年学会発表や論文投稿するなど、研究を通して自分も学ぶ気持ちを忘れてはいけないですね。

Toshiko Tada

Yoshimi Bando



坂東 良美

ばんどう よしみ

徳島大学病院 病理部 准教授
博士(医学)

略歴

徳島大学医学部医学科を卒業し、徳島大学酵素科学センターで博士課程を修了。1年間助手をした後、一旦休職。2年後に徳島へ戻り、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・病理学分野を経て、3年前より現職。



My Favorite

病理組織の切り出しに欠かせない、仕事の七つ道具。

小さな変化を見逃さず、新しいことに挑戦

がんの早期診断や治療に応用するために
現在は、乳がんの予後や治療効果を予測する因子を探る研究を行っています。34歳の頃、外科医をしている主人から、「病理診断がとても重要」と聞き、この分野を本格的に学び始めました。乳がんの形態の特徴に結びつくような遺伝子やタンパク質の変化を見つけて、がんの早期診断や治療に応用するのが今後の目標です。ただ、会議や病理診断だけで1日が終わってしまうこともあり、研究の時間を作るのが難しいところでした。

当時、女性研究者のロールモデルがあれば...
学生時代は、医師をしている母を見て仕事と家庭の両立はとても大変で、大学を卒業しても医師としてやっていくのが不安でした。女性研究者は転勤もあり、また育児等で急に休みを必要とする場合もあって、周りに気兼ねすることが多くあります。母は「女の人は、働ける時に男性の2〜3倍は働いておかない」とよく言っていました。当時、女性研究者のいろいろなロールモデルがあれば、別の選択肢もあったのかも少し分まらなりましたが、臨床ではなく、基礎分野に進もうと決めました。科によつては「女はいらん」という所もあり、自分で尻込みしてしまつたところもあるかもしれません。主

がんの早期診断や治療に応用するために
現在は、乳がんの予後や治療効果を予測する因子を探る研究を行っています。34歳の頃、外科医をしている主人から、「病理診断がとても重要」と聞き、この分野を本格的に学び始めました。乳がんの形態の特徴に結びつくような遺伝子やタンパク質の変化を見つけて、がんの早期診断や治療に応用するのが今後の目標です。ただ、会議や病理診断だけで1日が終わってしまうこともあり、研究の時間を作るのが難しいところでした。

自分にはできない研究を進めて欲しい
研究者は、「何かいつもと違うな」と気付くことが大切だと思います。小さな変化を見逃さず、いつも好奇心をもって新しいことに挑戦する人が研究者なのではないかと。失敗したかな?という時にこそ、新しい発見があったりするんですよ。なぜなら、どうして?と常に考え、どんな事象にもチャレンジして極めていく頭の柔らかさが大事だと思います。これから研究を目指す方は、探求心をもち、自分にしかできない研究を進めて欲しいですね。また、若いうちに海外に出て、考え方や視野を広げてもらえたら、と思います。私は、第三子出産を機に一度職を離れましたが、若い方にはぜひ辞めずに研究を続けて欲しいと思います。とはいえ、2年間子育て・主婦をした経験は、「子どもとじっくり向きあえた」と満足されています。たくさんの人に支えられて、今までやって来られたと本当に感謝しています。

コツコツと日々の積み重ねが大切である

適切な診断と治療でOOLをあげたい
泌尿器科医として診療に取り組み、中でも女性泌尿器科、排尿機能を専門とし、専門外来を週に1回行っています。女性の尿失禁や骨盤臓器脱、過活動膀胱や間質性膀胱炎の診断、治療に当たっています。生命に直接かわる病気ではありませんが、女性のOOLを大きく低下させます。なかなか病院にかかることができません。悩まれている方々の敷居を低くすること、適切な診断と治療でたくさんの方々のOOLをあげることが目標です。将来的には複数の診療科や職種をまたがった女性の骨盤底機能センターに発展させたいと思います。

研究もプライベートも欲張りに生きて
興味がないことでも、あなたに仕事のお誘いがかかった時には、選ばれただけの理由があるはず。引き受けてみることをお勧めします。きつと世界が広がり、キャリアアップにつながると思います。一度きりの人生ですので、研究もプライベートも欲張りに生きてください。

大学では内容の濃い実習を体験できた
佐賀大学では当時泌尿器科が一番面白いといわれていました。内容の濃い実習で学んだことで、内視鏡手術の美しさや患者さんの腎、排尿、性功能を大切に考える方などに魅せられ泌尿器科医になることを選択しました。日本では女性泌尿器科医が極端に少なく300名程度、徳島では2名しかおらず、必然的に女性泌尿器科に取り組むことになりました。

研究もプライベートも欲張りに生きて
興味がないことでも、あなたに仕事のお誘いがかかった時には、選ばれただけの理由があるはず。引き受けてみることをお勧めします。きつと世界が広がり、キャリアアップにつながると思います。一度きりの人生ですので、研究もプライベートも欲張りに生きてください。

Yasuyo Yamamoto

山本 恭代

やまもと やすよ



My Favorite

研修医の皆さんから贈られた大切な色紙は宝物。

徳島大学病院 泌尿器科 講師
博士(医学)

略歴

高校生の時に生物の授業でいかに生物が環境に適応しながら子孫をのこしていくかという興味を持ち、生命科学の道へ進むことを決心。人と直接かわかり、人の役に立てる仕事につきたいと医師を目指して、佐賀大学医学部へ入学。卒業後、千葉大学泌尿器科を経て徳島大学病院泌尿器科勤務。



徳島大学 AWA(OUR) サポートシステム

AWAサポートセンターは、啓発・広報部門、人材育成部門、WLB支援部門の3つの部門を置き、各部門の教員が協力して女性研究者支援のための「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」の構築に取り組んでいます。

男女共同 参画への 意識啓発の 推進

教職員・学生への啓発セミナーによる男女共同参画の意識啓発を行うとともに、女性研究者自身に対してはキャリア形成のための自己啓発を促します。また、出張講義などによる中・高校生への啓発事業も行います。

女性研究者 拡大支援

「徳島大学AWA(OUR)サポートシステム」では、子育て世代の女性研究者層の底上げを大きなテーマとしつつ、女性研究者ネットワークの構築、キャリアアップのための研究支援、ワークライフバランス実現のための支援により、女性研究者全体の支援に取り組んでいます。

男性研究者と比べ、身近にロールモデルの少ない女性研究者が、女性研究者同士の交流の機会を持つよう、SNSや交流会の場を提供し、また、先輩研究者に研究と家庭の両立やキャリア上の相談ができる環境を作るため、メンター制度を導入します。

こうした女性研究者ネットワークとともに、キャリアアップのための研究支援セミナー、ワークライフバランスの実現に向けての支援、AWAベビーシッター制度の構築と運営、AWAベビーサポート制度による子育て支援情報の提供など、出産子育て世代の女性研究者が、健全な家庭生活と研究活動を両立することができる環境を整えます。



AWAサポートセンターの取組

(※は男女共同参画推進本部の活動)

女性研究者の 出張講義など

AWAサポートセンターでは、啓発セミナー等により意識啓発を行う一方、女子中学生・高校生などの次世代の育成、裾野拡大にも目を向け、出張講義等に女性研究者を派遣することにも取り組みます。女子生徒が、生き生きと活躍する女性研究者と触れあう機会を得ることで、研究職や理系進学を意識するきっかけとなれば、と願っています。



- 外科模擬手術体験～徳島キッズセミナー～
- 徳島県立北高等学校
- 徳島県立阿波高等学校
- 徳島県立鳴門第一高等学校
- 歯学部学部生対象「進学・就職ガイダンス」
- 徳島県立脇町高等学校の徳島大学訪問



2011.2.9-10 メンター研修開催



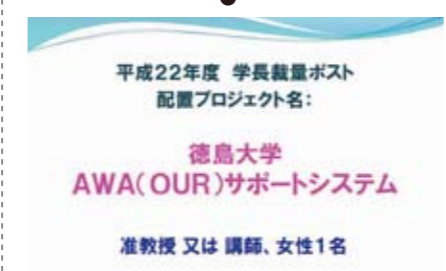
2011.1.26-27 第1回キャリアデザインセミナー開催



2010.10.1 AWAサポートセンター新設



2011.2.19-20 AWA Support Center Retreat 開催
2011.2.23 AWAサポートセンター広報誌「あわさぼ」創刊



2011.1.1 学長裁量・女性研究者プロジェクト 女性講師1名採用
2011.1.18 研究支援セミナー「英語論文作成に関する講義」3回シリーズ



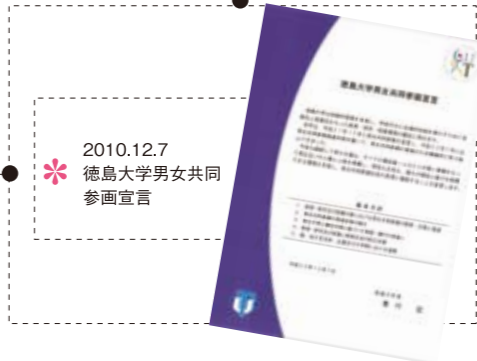
2010.10.21 AWAサポートセンターオープン記念企画 記念撮影/シンポジウム参加報告/学長を囲む会



2011.2.28 AWAサポートセンターホームページ開設
2011.3.9 女性研究者交流会開催
2011.3.17-18 ベビーシッター養成講座開催



2010.12.7 徳島大学AWA(OUR)サポートシステムキックオフシンポジウム—AWA(OUR)STYLEの研究者支援確立をめざして—開催



2010.12.7 徳島大学男女共同参画宣言

Yasuko Ishikawa

石川 康子

いしかわ やすこ



My Favorite

学会で海外に行くと
必ず購入する各地の民芸品。

徳島大学大学院
ヘルスバイオサイエンス研究部
歯学系・分子薬理学分野 准教授
博士(保健学)

略歴

食科学へ興味を抱き、日本女子大学を卒業後、徳島大学大学院栄養学研究科に進学。博士前期課程、博士後期課程を修了。同大学歯学部予防歯科学講座助手、薬理学講座助手、アメリカ国立衛生研究所・老年学研究所の客員研究員を経て、薬理学講座講師から助教授(准教授に改変)に。



Keiko Miyoshi

三好 圭子

みよし けいこ



My Favorite

研究室でいつも使用している
マイベットマンと、
マウスの歯の標本。

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
分子医化学分野 講師
博士(歯学)

略歴

徳島大学歯学部歯学科に入学。徳島大学大学院歯学研究科(博士課程)に進学し、博士を取得。大学院卒業後、徳島大学歯学部口腔生化学講座の助手に採用され、2年2ヵ月間、米国国立衛生研究所(NIH)に留学。帰国後、同講座の助手に復職し、同大学分子医化学分野の助教を経て、現在は講師を務める。

“付和雷同”は、研究者の大敵

何気ない会話が人生を変えた!?
大学院時代は「腸管における消化酵素の神経性調節機構」をテーマに、自律神経作用薬や遮断薬、神経節遮断薬、局所麻酔薬を用いて研究していました。そんな時代を経て予防歯科学講座の助手になりましたが、廊下を挟んだ向かいに薬理学講座があり、これらの薬物についてよく談義をしていました。そうこうしているうちに、薬理学講座の教授から「こつちへ来て、唾液腺における消化酵素の神経性調節機構も研究したらどうや？」と声がかかって：「この一言が人生のターニングポイントでした。その時、薬理学講座の助手に空席がなかったのかねてから思い描いていた外国での研究者生活に、2年間のアメリカ生活中に薬理学講座に空きが出たので徳島へ戻りました。何気ない会話から、何がどう転ぶか分からないですね(笑)。
自分を信じるのが、いかに大切か
現在、「膜輸送蛋白質なかでも水輸送蛋白質の自律神経系による機能の調節機構と病態変化や治療薬の開発」をテーマに研究しています。研究を続けていく中、思いがけない大きな壁にぶつかることがあります。正しいと思うを進めていた研究内容と、まったく逆の説が出てきたことがあります。その時はやはり：「たじろぎましたね。こういう時、偉大

な先達の言葉が頭をよぎります。かの「筋収縮のカルシウム説」で高名な江橋節郎先生でさえ、逆説に対処するのに「かかる火の粉を振り払う」に懸命であったとあり、正しいと考えられる方向から検証し、正しいと考えられる方向性が見出せた時はうれいですが、研究者たるもの、決して付和雷同せず、自分の信じる道を行かなきゃと思います。しかし、たじろぎの時間も大切です。たじろいでいる時、水輸送蛋白質が唾液中へ遊離され、これが検査の指標に使えることを見つけました。
研究成果の実用化は研究者の目標
薬の多くは植物から作られており、野菜から作られた薬も沢山あります。私は今、基礎研究を進めながら、食品から薬を作ることや唾液成分を用いた病気診療用のキット開発等に全力前進。実用化に向けて進めています。
女性力こそ、
新しいものを生み出す力
アメリカで出会った韓国女性性は、ご主人やお子さんを自国に置いて1年間、研究されています。また、お子さんを自国のベビーシッターに預けて、2年3ヵ月間、徳島大学で研究を続けた中国女性もおられました。世界中の傾向として、女性が行動を起こすところから、新しいものが生み出されるのだと感じます。

明日はいつも新しい一日

あの時の決断が、今の私を決めた
あれは大学院修了後、『徳島大学歯学部口腔生化学講座』の助手に採用されて1年目のことでした。ある日教授から「留学したいか？」と尋ねられたのです。突然の話でしたが「留学したいです！」と即答した自分を覚えていません。海外ではどのように研究が進められているのか自分の目で確かめたくて、その3ヵ月後、私の「初めての一人暮らし」がアメリカでスタートしました。留学先では、乳腺の分化機構に関する研究に携わり、細胞の運命決定機構や分化転換にも興味を持ちました。細胞が、いつどのように骨や歯、乳腺や毛になり、機能するようになるのか、不思議だと思いませんか？
大きな夢につなげた、iPS細胞の研究
現在、私は「歯の発生分化過程の分子メカニズムの解明」や、「ヒト口腔粘膜由来線維芽細胞からiPS細胞の樹立と再生医療のための基礎研究」という課題に取り組んでいます。簡単に言えば、さまざまな細胞への分化が可能で、再生医療などへの応用が期待されているiPS細胞(人工多能性幹細胞)の材料として、口の中の粘膜細胞が利用できないかということ。患者さん自身の臓

器が再生されたり、口腔粘膜由来iPS細胞が疾患の原因解明や治療法の開発に役立つ日を夢見ながら、日々研究を積み重ねています。
研究とは、真面目にチャレンジし続けること
研究は「結果」を出さなければ評価されないシビアな面もありますが、良い結果を出すためには「過程」も重要だと思っています。留学先では言葉による「ミニレクチャー」には限界がありましたが、一生懸命、研究に取り組み姿を周りはずっと見てくれていたんです。言葉が違っても、ラボの仲間たちは私のことをよく理解してくれていました。何事にも興味を持ち、謙虚に一生懸命、取り組み続けることが大切だと実感しました。
女性だからといって、できない事はない！
運が良かったのかもかもしれませんが「女性」という理由で苦勞をしたことはまだ、ほとんどありません。仕事と家庭を両立させるのは難しく思うかもしれませんが、留学先では家庭を持ちながら活躍している女性研究者を実際に見てきました。みなさんも、いろいろな「人」との出会いを大切に、めぐってきたチャンスを積極的に活かして下さいね。